

雇用創出部会

- 第1回 平成27年7月31日（金）1
@おぐに開発総合センター 保健相談室
- 第2回 平成27年8月19日（水）4
@おぐに開発総合センター 研修室
- 第3回 平成27年9月 9日（水）7
@おぐに開発総合センター 研修室

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第1回 雇用創出部会 要旨

- 日 時 平成27年7月31日（金） 18:30～20:30
- 会 場 おぐに開発総合センター 3階 保健相談室
- 出席者 懇話会委員：布施和宏、寫貫速人、大谷健人、猪野みどり、齋藤美穂、柿崎清隆
オブザーバー：舟山議会事務局長
事務局：佐藤政策企画室長、小野政策企画担当主査、渡部主任
- 概 要 講師紹介、自己紹介に続き、事務局より会議開催趣旨とまちづくりの基本的な考え方等について説明した後、布施委員を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨（内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なります。）

布施委員より、総合計画にしばられず、具体的に「こうしたら雇用が創出できる」ということを自由な発想で述べてほしいとの発言。各委員より、以下のような発案があった。

- ・ ウイスキー工場を建て、おぐにブランドとして販売し雇用を生む。
ワイナリーは県内に12箇所ある。酒蔵もたくさんあるが、ウイスキーはない。
- ・ これだけおいしい水があるので、水の産業を興す。
コバレントでは一時期、飯豊町から飲用水を買っていた。
高額な浄水器がよく売れている。需要はあるはず。
農業分野でも期待。ご飯の味は水で変わるので、水と米をセットで売る等が可能。
- ・ 農家が夏に農業、冬に除雪に従事。安定収入を確保。
除雪は雇用吸収力ある。
新規就農者向けの「アグリスタータキット」として有効。
- ・ 米以外の核になる畑作物を作る。
学校給食向けのたまねぎ等に取り組んでいる。
かつてケールに取り組んだことがあるが、販路確保が難しかった。
花卉は近年、新たな栽培方法の登場で値崩れ。暖房費を克服できれば有望。
- ・ 子供が遊べるようなアスレチックやクライミングウォールなどを作る。
りふれやオートキャンプ場などの施設と連携して使える。
「ふなばしアンデルセン公園」のように外から人を呼び込んでいる例もある。
廃校を丸ごとアスレチックにするのも面白い。雨天時や冬季にも使える。
- ・ 廃校施設を再利用する。
老人ホームやグループホーム等に再利用できないか。
- ・ 山をくり抜いて大きい広場を作る。冬季は多目的広場、遊び場に。夏は農作物の保管に。
雪室として利用すれば付加価値が付きより売れる。冷房、加湿の電気代もかからない。
サンダーバード等の秘密基地は山の中と決まっている。

- ・クアーズとコラボで地ビールを作る。
実現すればクアーズ初の日本拠点。地ビールビジネスのノウハウ獲得にもなるはず。
クアーズテックの社長が来た際に地ビール開発をお願いしてはどうか。
ビールに「コバレント」の名前を残す。
- ・航空ビジネスやロケットビジネスを誘致する。
打上場、実験場を併設しても騒音や事故のリスクを避けられる。
- ・森を活用してバイオマス発電を行なう。
- ・より質の高い水を得るために森を管理する。
- ・漢方薬などの高付加価値作物を栽培する。漢方料理や薬膳料理を食べさせる店を開く。
小国には他の農地と隔離され、水が混じらない有機栽培に向いた環境が多い。
県内でよく食べられている「ひょう」も漢方薬になる。
- ・山菜を売り出せるルートを作る。
サプリメント化はどうか。
- ・特産品を食べさせるレストランを開く。
雑穀だけなら他地区でもあるが、雑穀・地鶏・みそのオール小国でやれば面白い。
地鶏はラーメン用の鶏ガラの消費量に対して肉が伸びない。
- ・施設が奥まったところにあり行きにくい。
奥まった場所には景観の良いところが多い。周回できれば観光で雇用が創出できる。
- ・名所がほしい。現状では仙台、山形と新潟との通過点でしかない。
多くの町外者にとって、小国のイメージは「熊」と「雪」しかない。
逆に、小国に入ったら「熊出没注意」の旗がたくさん立っているというのはどうか。
- ・スキー場に花を植える、トレッキングコースを作るなど、夏の利用を考えてみる。
- ・観光地整備専門の開発会社を作る。
- ・町で工場を建て、企業に安く貸して工場を誘致する。
地震に強い。台風被害も少ない。
除雪にコストがかかるが、雪で冷房するシステムを作れば逆に強みになる。
水がきれいで、精密工業に向く。
- ・ウイスキー、ビール等の原料（麦、トウモロコシ、水）を町の農業で安定供給する。
原料となる農作物の価格が安定する。ただし麦は雪との関係で栽培が困難か。
今回はこれらを既存産業との関係や新規性、実現可能性などの視点から検証し、提案の方向性を見出すこととした。

○その他 第2回部会を8月19日、第3回部会を9月9日とした。

<黒板メモ>

「こういうことをやったら雇用が生まれる！」

- ・ ウイスキー工場を建てる。
- ・ 水の産業を興す。←浄水器がよく売れる。
↑
農業分野でも期待。(水と米をセットで売る 等)
- ・ 農家が夏に農業、冬に除雪に従事。安定収入を確保。←アグリスタータキット
↑雇用吸収力ある
- ・ 米以外の核になる畑作物を作る。
↑
ケール
- ・ 子供が遊べるようなアスレチック等を作る。(りふれ等の近くに)
↑
「アンデルセン公園」の例、クライミングなど
- ・ 廃校施設を利用 (高齢者施設、学校まるごとアスレチックに 等)
- ・ 山をくり抜いて広場→農作物の保管、サンダーバード等の秘密基地は山の中になる！
↑
より売れる⇒雇用
- ・ クアーズとコラボで地ビール (小国コバレントビール) ←クアーズ初の日本拠点
- ・ 航空・宇宙産業を誘致 (音、事故を気にしなくて良い)
- ・ 森を活用してバイオマス
- ・ 森を管理してより良い水
- ・ 漢方薬の栽培←小国は有機栽培しやすい (ひょう)
- ・ 山菜を売り出せるルート←サプリメント化
- ・ 特産品を食べさせるレストラン
雑穀+地鶏+みそ・・・オール小国
- ・ 施設が奥まったところにある、1周できれば・・・
- ・ 名所がほしい。通過点でしかない。
↑
小国のイメージは熊と雪
⇒逆に、小国に入ったら「熊注意」の旗
- ・ スキー場の夏の利用 (花を植える、トレッキング)
- ・ 観光地整備専門の会社を作る。
- ・ 工場を誘致する。(町で工場を建てて貸す。)
↑
地震に強い。台風被害も少ない。
除雪にコストがかかる⇒雪で冷房
- ・ ウイスキー、ビール等の原料 (麦、トウモロコシ、水) を安定供給
⇒価格も安定

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第2回 雇用創出部会 要旨

- **日 時** 平成27年8月19日（水） 18:30～20:30
- **会 場** おぐに開発総合センター 2階 研修室
- **出席者** 懇話会委員：布施和宏、寫貫速人、大谷健人、猪野みどり、齋藤美穂、柿崎清隆
オブザーバー：井上地域整備課長
事務局：佐藤政策企画室長、小野政策企画担当主査、廣瀬主任、渡部主任
- **配布資料**
 - ・総合戦略における基本的方針と基本的な方向
 - ・総合戦略・過疎地域自立促進計画 各施策等の整理
 - ・小国町地域創生総合戦略住民意識アンケート調査の実施状況
 - ・第1回雇用創出部会要旨
- **概 要** 佐藤室長からアンケート結果の概要と総合戦略の基本的な枠組みについての現時点での検討状況を説明した後、布施委員を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨（内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なります。）

布施委員より、前回各委員から発案のあった雇用創出策について、小国町民が自ら実現できる可能性を5点満点で評価する旨の発言。各委員より、以下のような意見があった。

- ・ウイスキー工場を建てる。
 - 1点。資金がかかり、企業を誘致する以外に考えにくい。
- ・水の産業を興す。
 - 3.5点。方法によっては低コストで起業可能。
- ・夏に農業、冬に除雪に従事する就業形態を「アグリスタータキット」として斡旋。
 - 5点。すぐにもやるべき。
- ・米以外の核になる畑作物を作る。
 - 3.5点。産地形成に必要なだけの実践農家を確保するのが困難。
- ・アスレチックやクライミングウォールなどを作る。
 - 1点。集客を考えると、経費がかかりすぎる。
- ・廃校施設を老人ホーム等に再利用する。
 - 1点。施設環境を整えるためには莫大な経費がかかる。介護保険料の上昇にもつながり、実施は困難。
- ・山をくり抜いて大きい広場を作る。
 - 3.5点。新たに作るのは莫大な工事費がかかり困難だが、使用していないトンネルを利用する方法はある。他地域では農業利用の実績も。
- ・クアーズとコラボで地ビールを作る。
 - 1点。クアーズのビール工場を誘致する必要がある。ただし、真剣にお願いしたい。

- ・航空ビジネスやロケットビジネスを誘致する。
→1点。起業の誘致が必要。
- ・森を活用してバイオマス発電を行なう。
→4点。発電自体は初期投資や費用対効果の面から実現困難だが、原料供給地としては実現性が高い。
- ・漢方薬などの高付加価値作物を栽培する。
→4点。販売ルートがあれば実現可能。新規性もあるので、取り組みたい。
- ・山菜を売り出せるルートを作る。
→4点。すでに一定の販売ルートがあり、加工にも取り組んできた。
- ・特産品を食べさせるレストランを開く。
→4点。初期経費は大きくない。ただ、雇用という面から効果は限定的。鶏ガラや野菜などの原料供給地としてならば期待できる。
- ・施設が奥まったところにあり行きにくい。名所がほしい。
→採点不能。具体性に欠ける。雇用という点でもぼんやりしている。
- ・スキー場に花を植える、トレッキングコースを作る、観光地整備専門の会社を作る。
→1～2点。地域活性化にはなるが、完全投資先行型で収益性も不透明なので困難。
- ・町で工場を建て、企業に安く貸して工場を誘致する。
→1点。企業誘致が前提。
- ・ウイスキー、ビール等の原材料を供給する。
→3～4点。工場誘致は困難だが、農業をベースにすればこれは可能。

次いで、実現性を高く評価して内容について、「総合戦略における基本方針と基本的な方向」の「1 本町における安定した雇用を創出する」に挙げられている

- A 既存産業の継続的な発展支援
- B 森林資源のさらなる活用と第1次産業の活性化、高度化の推進
- C 各分野の連携、協働による地域資源のブランド化の促進
- D 環境保全や健康など新たな価値を生み出す産業づくり
- E 多様な働き方の創出と起業・創業支援

の5項目のいずれに該当するかを検討した。

- ・夏に農業、冬に除雪に従事する就業形態を「アグリスタータキット」として斡旋。
→E。除雪だけでなく色々な職業との組み合わせが可能。農業以外でどのくらい稼ぎたいかがポイント。
- ・米以外の核になる畑作物を作る。
→E。米や畜産は大型の初期投資が必要。始めやすい作物から始めるのが現実的。
- ・森を活用してバイオマス発電を行なう。

- B。原材料供給基地になり得る。質の高い水を得るための森林管理にもつながれば、Dにもなる。
- ・漢方薬などの高付加価値作物を栽培する。
 - E。既存の農業とは異なり、起業に近い。
- ・山菜を売り出せるルートを作る。
 - C。
- ・特産品を食べさせるレストランを開く。
 - C。原材料供給の面から整理すべき。
- ・ウイスキー、ビール等の原材料を供給する。
 - D。
- ・Aはすべてに関する項目なので、分類されるものがなくて当然。

以上のように整理し、総合戦略の雇用創出に係る相当部分を網羅できるだけの意見が得られていることを確認した。

一方、求人数が一定程度あるにもかかわらず、希望職種とのミスマッチから「雇用の場がない」との意識が生じていることや、子育て支援等の雇用を支える仕組みづくりも重要であることから、次回は小国町内に住んで働ける条件の検討を行うこととした。

○その他 第3回部会を9月9日とした。また、第4回を10月5日～8日の間に行う予定であることから、日程を確認いただくよう連絡した。

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第3回 雇用創出部会 要旨

- **日 時** 平成27年9月9日（水） 18:30～20:30
- **会 場** おぐに開発総合センター 2階 研修室
- **出席者** 懇話会委員：布施和宏、寫貫速人、大谷健人、猪野みどり、齋藤美穂、柿崎清隆
オブザーバー：井上地域整備課長、齋藤産業振興課長
事務局：佐藤政策企画室長、渡部主任
- **配布資料** ・小国町地域創生総合戦略策定のための住民等意識調査の結果について
・第2回雇用創出部会要旨
- **概 要** 佐藤室長からアンケート結果の概要について説明した後、布施委員を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨

アンケートの結果について各委員が感想を述べた後、布施委員を中心に、前回課題として挙げられた雇用のミスマッチや子育て支援など、雇用をとりまく諸問題について話し合った。

各委員の発言は次のとおり。

（布施委員）アンケート結果について皆さんの感想を聞きたい。

（大谷委員）想像どおり。違和感のあるところはない。

（齋藤委員）思った以上に、町に愛着を持っている若い人が多い。

（寫貫委員）想像以上に中高生が小国町に愛着を持っていて、住みたいと思っている。

（布施委員）そうすると、雇用のミスマッチがなければ、人口の社会的減少はある程度食い止められるということ。

（柿崎委員）雇用の場さえあれば人口は増えるとは思いますが、職場の面積等を考えると難しさもある。また、もっと色々なタイプの就職の場があれば良いと思うが、どういう職種を望んでいるのかもわからない。

（布施委員）中高生が意外と町に愛着を持っている。これは予想していなかった。また、自分のつきたい職業が「ある」と答えた人が意外と多かった。特に医療、福祉など。これらは介護、看護か。

（佐藤室長）そうだと思う。イメージしやすい職業ほど「ある」と答える人が多い。

（布施委員）このあたりを大事にすれば、雇用は確保されるのではないかと。また、ゲーム・インターネットを希望する人は今の状況を知らずに「ない」と回答していると思う。インターネットやソフト開発などは田舎に環境を整えて事業をやる例もある。環境さえ整備すれば、小国だからこそできるという面もあるのではないかと。

一方、アンケート結果では、必要な雇用対策として「企業誘致」を挙げている人が一番多いが、これは本当に雇用対策になるのか。水資源や原材料の供給地としての立地な

らわかるが、単に企業が来るだけでは、雇用吸収力はあるが他とのバランスを失うような気がする。

前は、私たちが考えた雇用創出の案について実現可能性を検討し、総合戦略における位置づけを整理した。今回は、子育て・介護等のために働きたいのに働けない人や希望職種がないと思っている人に対して、どうすれば小国で暮らしてもらえるか、雇用をとりまく諸問題について話し合いたい。

例えば柿崎さんはなぜ小国に戻ってきたのか。

(柿崎委員) 何か仕事をしなければと思い、家業である会社に就職することにした。特に職種にこだわりがあったわけではない。

(布施委員) そういう意識であれば、雇用のミスマッチは起きない。職業は選ばないから地元で暮らしたいと思うような、地域を大切にすることを育てれば、働く場所がないということとは生じない。

(猪野委員) 今、小中高では白い森学習をやっていて、小国の文化や自然を勉強しているので、愛着心は出てきている。ただ、例えば医療関係でみると、看護学校に進学する子供は多いが、小国では小国病院に数人しか採用がなく、外に就職してしまっただけでそのまま戻って来られない現実もある。職種は合っても、受け皿が十分ではない。

子育て支援については、小国は恵まれている。親の介護の方が課題。まだまだ働けるベテランの職人がやめて親の介護をしているという話をよく聞く。

(寫貫委員) 自分の人生なので親が強制することはできないが、地元で暮らしたい子が多いなら、働ける場を作ればそれで解決する。仕事を作ること自体は何とかなると思う。

(猪野委員) 空き家になった商店街に IT 関係の企業を誘致した例を聞いた。

(布施委員) IT 関係、アニメーター、商品開発などの工房を作ってはどうか。農業は。

(大谷委員) 職業体験で農業を選ぶ人は多いが、職業としてやりたいかというのと、また別。儲からないイメージが定着しすぎている。また、のどかなイメージで就職するとすぐにやめることになる。対人関係のストレスはないが、肉体的なストレスは大きい。

(布施委員) 齋藤さんはコバレントでどんな仕事をしているのか。なぜコバレントに就職しようと思ったのか。

(齋藤委員) ガラスの火炎加工をやっている。小国に愛着があったので、小国で条件の良い就職先を探した。コバレントに勤めている人の多くはそうだと思うし、それで就職できなければ外に出る。

(布施委員) それが声なき声の大多数だと思う。その受け皿として企業誘致は重要。

一方で、これから年金が下がるので長く働く必要があるが、そのマーケットはあるか。

(猪野委員) 手に職のある技術職の人は有利。

(布施委員) 町として、全員が 70 歳まで働かなければ生きていけない社会になったら、若い人の働く場はあると思うか。

(猪野委員) 年々子供の数は減る。その分の労働力を補わなければならないので、むしろ高齢者は働かなければならないかもしれない。

(齋藤委員) ただ、体力的には厳しいと思う。工場なら三交代。全部が機械化されているわけでもない。

(布施委員) 若い人の雇用が増えたとき、高齢者の働く場はなくなるのではないか。

(大谷委員) 農業は大丈夫。高齢者でも手伝えることがあるし、すでに 70 代の人も多い。

(柿崎委員) 土木も、現場では 70 代、80 代の人を雇っている事例もある。

(布施委員) 農業、土木や手に職がある人は大丈夫ということか。

(大谷委員) 高齢者より、やはり若い世代について考えた方が良い。

(布施委員) 他に雇用に関する課題はないか。

(柿崎委員) 小国は高血圧の人が多い。病気による介護や、自分の治療をしながら仕事をするような方法はないか。

(布施委員) 農家は常に家にいるイメージがあるが、農家にとって介護の問題はないか。

(大谷委員) 忙しいときは朝 5 時に出て、夜 7 時まで帰ってこないの、やはり難しい。夫婦で農業をやっていれば介護もできるかもしれない。家事を手伝う人を雇えばどうかできる。

(布施委員) お金がかかるが、複数の事業者がまとまって仕組みを作れば可能か。

(猪野委員) 一番大変なのは病院通い。

(布施委員) 幼稚園の送迎バスのようなイメージで病院が送迎する、専門の送迎事業者をつくるなど、方法はありそう。本人の場合は、治療のための通院が続くと本人も会社も気まづくなってしまう。これは本人が気をつけるしかない。

(猪野委員) 資格を持っている人は強い。工事ごとに短期雇用を続けて高給をもらっている人もいて、そういう人は引く手あまた。

(布施委員) 小国高校でも、資格を取るような指導はしているのか。技術を持っている人は先日、ある高校生の履歴書を見たら資格がたくさん書いてあった。

(猪野委員) 小国高校は情報処理関係の資格取得に熱心。

(布施委員) そういう資格を取り、また進学して別の資格をとっても、外で就職してしまえば待遇の差や生活環境などのために戻ってくるのは困難。それが最大の課題か。

(猪野委員) それに加えて、製造業だと素材を作るような業種の場合は何をやっているのかイメージしにくい。

(布施委員) もっと宣伝しても良いのでは。

(猪野委員) 長井市のロボット産業や鶴岡市のスパイバーなど、小さくても全国から注目を集めるような分野があれば小国に対する見方も変わるかもしれない。

(布施委員) コアになる人材が 3〜5 人いれば実現可能。ただ、そういう人を町内から見つけるのは難しいので、環境を作って人を誘致し、そこから産業を作っていくのが良い。そ

れができるのはコバレントだと思う。

今日の議論をまとめると、雇用を取り巻く諸問題としては、介護・病気の問題や、ある程度教育を受けた人間が小国町に戻ってこようとしたときに受け皿がないという問題がコア。これについてもっと検討しないと、本当の意味での雇用創出にはならない。

前回までで参考になる部分がたくさん以上で雇用創出部会としての議論を終えることとする。

○その他 第4回部会を10月5日に4部会合同で行うこととした。